



キャンパス／福岡県福岡市 学生数／3,726人 創立／2007年 法人／株式会社サイバー大学
 建学の理念／サイバー大学は、場所や時間など個人の環境や条件を問わず、勉学に意欲のある多くの人に幅広く質の高い学修の機会を提供し、社会の形成者として有能な人材を育成することを理念とする
 学部／IT総合
 THE オンライン学習ランキング2024／ブロンズ評価、成果5位

CASE STUDY

企業視点の人材育成システムが 学び続ける学生を引き付ける

サイバー大学

IT企業ならではの発想やテクノロジーを生かした日本初のフルオンライン大学。
 未来志向の独自戦略と、新しい市場を切り拓くその教育モデルの核心を聞く。



学長
川原 洋

かわはらひろし●1984年マサチューセッツ工科大学工学部博士課程修了。シュルンベルジェ、ロータス(現日本アイ・ビー・エム)等を経て、2000年ソフトバンク・イーシーホールディングス(現ソフトバンクBB)入社。2007年サイバー大学着任。2012年より現職。

高度IT人材を育てる 学生本位の学習システム

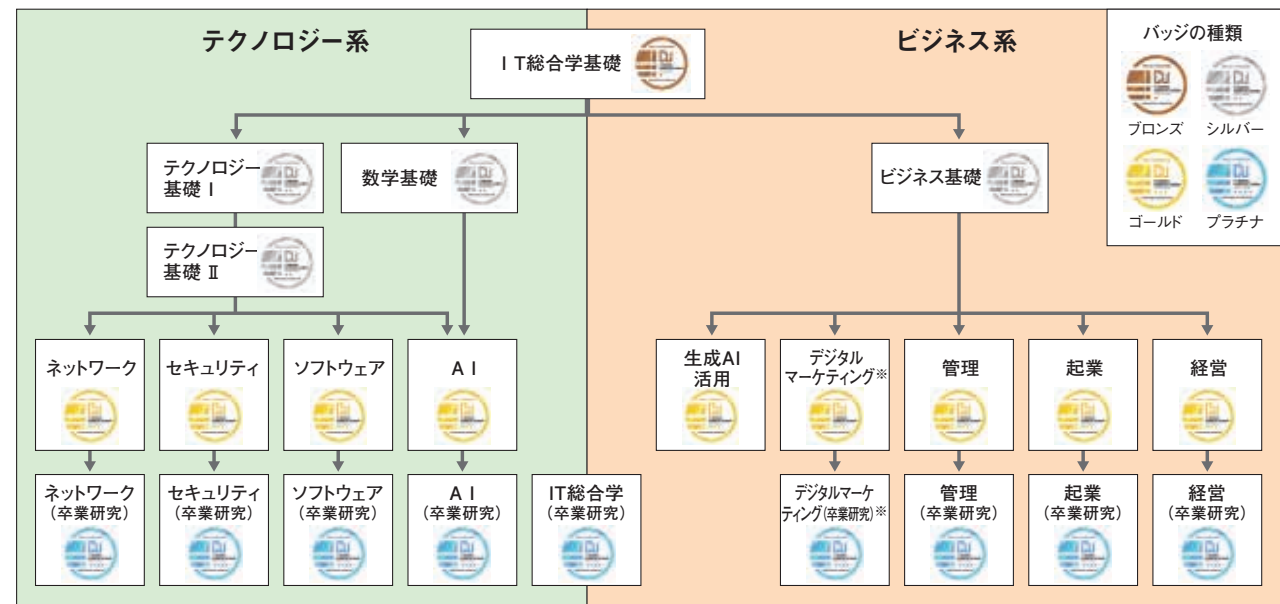
授業は全てオンデマンド配信するため通学不要でスマホでも受講可能。授業配信や試験、成績評価などを行う*1学習システムを独自開発し、全学習情報をデータ化。受講状況や授業評価を基に、学期ごとに授業を改善。学生の質問には24時間以内に回答し、多様な年代、背景の学生同士がオンラインゼミで議論：このような徹底した教育環境の一つひとつが、「どんな企業でも欲しい高度IT人材を育てる」という本学の使命に直結しています。*2世界的なオンライン学習ランキングでは「成果」の項目で世界5位を獲得できました。開学は2007年。産学連携による教育拠点を構想していた福岡市と、IT人材の育成や教育格差の是正を志していたソフトバンク

の構想が一致して、特区計画に基づいた株式会社立大学として設置。今では4000人弱の多様な学生が学んでいます。当時、同社で技術担当執行役員をしていた私は、実務家教員兼システム*4CPOとして本学に着任。オンライン教育は、学生時代に学んだアメリカの大学の運営手法との親和性が非常に高く、システム構築に大いに役立ちました。カリキュラムや授業はチームでつくり、授業評価は全て公開。学生の成長度、満足度を高める方法をシステムチックに追求するしくみに。また、「これからのIT人材には、専門知識だけでなく、幅広い教養に裏打ちされた思考力こそが武器になる」との信念に基づき、科目の約半分を教養や外国語に充てています。開学当初の厳しい募集状況が好転したのは、リスキリング需要の高まりに、教育内容と、かゆい所に手が届く受講システムが合致したからでしょう。コロナ禍以降は24歳以下の入学者が激増し、学生の4割は専業学生です。強い向学心を抱きながら通学制だと通にくい多様な人々が門戸をたたいています。唯一の対面行事である卒業式で全身不随の卒業生の姿を見るとき、通信教育の意義と可能性を感じずにはいられませんでした。

学士課程は通過点 卒業後も継続学習へ

人材育成の点では、もはや大学教育と社会人教育の境目はなく、在学中も卒業後も学び続ける動機を生む教育が求められています。それに応えるべく、2024年度、カリキュラムをマイクロクレデンシャル(以下、MC)を活用したものに改編しました「左図」。必修科目をテーマ別にクラスター化し、学生は自分の興味や目標、レベルに合うテーマごとのMCに段階を踏んで学びを進めます。これにより、「必修科目＝義務だから受講」ではなく、科目履修を「自分の武器を増やすための戦略的な行為」と捉えてもらいやすくなりました。併せて*5オープンバッジも付与し、社会人学生が在学中に転職活動を行いやすくなりました。加えて、「生成AI活用」など旬のMCを増設し続けて卒業後の継続学習を促しており、実際、科目等履修生として新たなMCを取得する卒業生も出始めました。生涯学ぶこの時代において、学生は通過点でしかありません。学習者が、場所や時間にとらわれず、付加価値となる武器をいつでも手に入れられる。それがフルオンライン大学たる本学の強みです。

マイクロクレデンシャルを活用した新カリキュラム(専門教育)

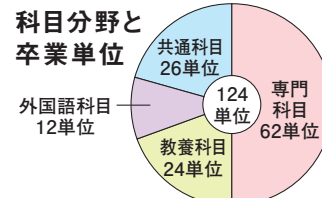


- 各バッジは3～4科目程度で構成される指定科目の単位修得によって獲得できる。
- 矢印は上位バッジの履修前提を示す。例:「AI」バッジの科目へ進むには「テクノロジー基礎II」と「数学基礎」バッジが指定する科目の単位を全て修得しなければならない。
- 在学生はプラチナバッジを除き、分野が異なる複数のバッジを獲得することができる。

※2026年度春学期より順次開講予定

サイバー大学が交付するマイクロクレデンシャルの定義

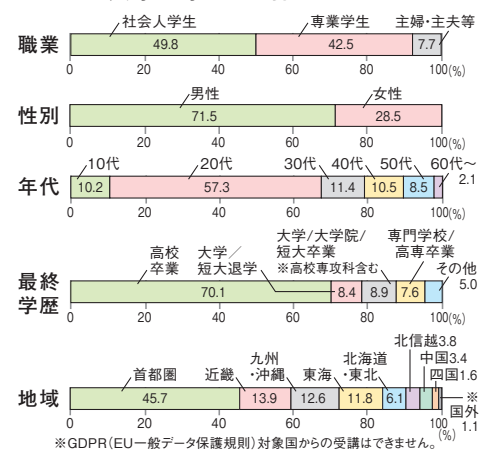
- 学習者が知っていること、理解していること、またはできることを証明するものであり、対象が重点化された学修成果の記録であること
- シラバス等において明確に定義された基準に基づいた評価を行い、本学の学長が交付するものであること
- 単独で価値を持ち、さらに他のマイクロクレデンシャルまたは学位の一部を構成したり、補完できること(本学以外における既修得の単位認定による取得要件の充足も含める)
- 質保証の基準(学内外で定めた基準や技術標準規格“Open Badges”など)を満たすものであること



注目 社会人、18歳、高卒者、主婦、学生の家族など、 多様な学生同士が学び、交流する教育環境

もともと多様だったサイバー大学の学生だが、近年さらに多様化が進んでいる。コロナ禍以降、専業学生の割合が高まり、今では4割以上に。高校卒業後ストレートに進学する10代の学生ほか、高卒後ブランクを置いて大卒資格をめざす20代も増えている。IT分野では珍しく、女性比率が3割弱。オープンキャンパスに訪れた親が興味を持ち、子と共に入学する例もある。Cloud Campus上で行われるディスカッションでは、「年配の幹部社員」「主婦」「18歳」といった異世代の交流が日常となる。同大学が今、あらためて意識しているのは、地方中小企業の人材育成ニーズだ。人材不足と業務の高度化に社員研修制度が追いつかない企業に対し、働きながら大卒資格を取れる教育を提供する。川原学長は「高卒社員を世界で戦えるレベルに引き上げたい」と意気込む。そのための施策として、同大学に進学する社員の授業料の一部を企業と同額支援する「授業料マッチングファンド」を新設。その他「社会人学生奨学金」を新設し、学生支援を強化している。

サイバー大学の学生の内訳



※大学資料を基にBetween編集部にて作成

*1 Cloud Campus *2 Times Higher Education Online Learning Rankings 2024。世界中の教育機関のオンライン教育プログラムの質を評価したランキング。サイバー大学は日本の機関として唯一ランキン(P.10参照) *3 構造改革特別区域計画「福岡アジアビジネス特区」 *4 Chief Product Officer *5 国際的な技術標準規格に沿って発行される改ざん・偽造不能なデジタル証明。学修履歴もデータに内包される